

JR東海労なごや

2017年 7月 14日 No. 1086
JR東海労名古屋地方本部
発行者： 山 田 哲 也
編集者： 教 宣 部

多くの組合員の参加により

第27回名古屋地本定期大会成功裡に終わる

蒲郡事件による不当な家宅捜査からちょうど10年目のこの日

JR東海労名古屋地本は、金山アビタンにおいて第27回定期大会を開催し、昨年の取り組みの総括と今年一年の闘いの方針を満場一致で承認しました。今大会は総会制で開催する初めての大会でした。前日の豪雨で鉄道が乱れていましたが、欠席者も無く、全体で44名の参加で大成功裡に終わりました。困難な状況にもかかわらず大会成功に向けた組合員の協力を改めて感謝します。



この一年で向こう5年、10年を見据えた礎を

議長に伊勢運輸区分会の谷口さんを選出し、大会が始まりました。冒頭山田委員長から「5年、10年を見据えこの一年を闘おうと本部の提起をふまえ、東海の地に労働運動の火を消さない取り組みを進め、勝負の年としよう。」と決意が述べられました。また10年前のこの日、不当な家宅捜索がやられた日でもありました。来賓の挨拶の後、昨一年の取り組みの総括と、今年の方針が執行部より提起され、休会をはさんで質疑に入りました。



組合員から職場での闘いが報告される

12名からの発言があり、職場の報告、労働委員会、安全問題、専任社員問題、とりわけ運輸区職場の年休問題が多く発言されました。要員問題に無策の会社に対し怒りをあらわにしました。また今年10月退職される吉田隆夫さんから、これまでの職場での闘いが報告されました。吉田さんは不当なボーナスカット攻撃により62歳で残念ながら退職を余儀なくさせられます。会社の理不尽な攻撃に抗しこれからも頑張る決意が発言されました。各部からの答弁に続き荻野書記長の総括答弁がおこなわれ、方針が満場一致で承認されました。



組合唱歌合唱の後、山田委員長の団結ガンバローで大会を終了しました。業務部は大会で出された意見をまとめ早急に会社に対して要求を申し入れを行います。

本部	小林 委員長	細川 JR 貨物労組東海地本委員長	原地本 OB 会長
	本橋 副委員長	杉沢 新幹線地本書記長	楠関ヶ原町議会議員
	木下 書記長	木下 静岡地本副委員長	加藤鉄道フアミリー営業担当部長
	越坂 業務担当部長	三田 新幹線関西地本副委員長	

以上参加された来賓の皆さん